

インディアナ日本語学校便り だいごう 第3号

令和7年5月3日事務所 317-255-1631 メール ijls@indiana-j-school.net

「第46回海外子女文芸作品コンクール」

～小中学生対象作文・詩・短歌・俳句4部門～

(土曜パラダイスへの応募作品可)

校長 森 勝義

インディアナ日本語学校の取組として、2023年秋から毎週放送している「森勝義の土曜パラダイス」に多くの児童生徒の皆さんが応募してくれています。過去これまで最多の応募数は約150首で、毎週コンスタントに約100首にもなります。毎週ひとりでも何首も応募してくれている児童生徒は数多くいます。

日々の生活や学校生活で「たのしかったこと」「うれしかったこと」「感激したこと」「家族やともだちのこと」などを、書いてくれています。児童生徒の語彙力や文章を書く能力や、心に浮かんだことを文字にあらわす力は、ひとりひとり確実に伸びてきています。

「2024年度第45回海外文芸作品コンクール」には世界中にある日本人学校、補習授業校217校が応募に参加し、4部門で実に29820首の数でした。その中から4部門の入賞者数は501名でした。

これらの入賞作品は「ちきゅうラジオ」(NHKラジオ第1)という番組で選ばれた作品を受賞者本人が読み上げています。日本国内・海外問わず、ラジオやインターネットから視聴可能で、毎週土曜日・日曜日、日本時間の午後5時05分から午後6時50分まで放送されています。皆さんもぜひ聴いてみてください。

谷川俊太郎さんの詩のように、皆さんと同じ境遇の児童生徒の皆さんがこの地球のどこかで、現地校や日本人学校・補習授業校で頑張っています。そういった児童生徒の皆さんが世界中では約49,000人います。私たち教師や保護者の方々は健気にがんばっている子どもたちを日々、温かく見守っていかなければならない責任があります。日本語学校と保護者の方々と「チームインディアナ」として一丸となって毎週の授業カリキュラム、行事に取り組んでいきたいものです。

さて、児童生徒の皆さんもご存じのことと思いますが、日本語学校から、昨年度はなんと二人も入賞しました。賞状と素敵な盾が送られてきました。あらためて紹介します。

現中学1年 飯田 逸士さん 「雪だるま 弟がきて こわされる」
現中学2年 安藤 歌耶さん 「始業式 ゴーグル焼けが はずかしい」

自分がどの分野で応募するか、まずはじっくりと考え、複数チャレンジしてみてもどうでしょうか。応募については担任に話を聞いてください。たくさんの応募、期待しています。今年は「学校賞」も狙います。

4月26日作品

土曜パラダイスで紹介

小学3年1組	椎名 駿介	「きれいだな ほしゅうこうにある、せんぱづる」
小学4年2組	読み人知らず	「よねんせい やっとなれたな うれしいな」
小学6年1組	吉岡 律	「鳥のような 飛べる翼が ぼくはほしい」
小学6年1組	野中 準矢	「鳥が飛ぶ 夕日へ進む 止まらない」
小学6年1組	濱石 朋佳	「鳥はいい いろんな所を みれるから」
小学5年2組	石井 碧芭	「クラス替え また来年も 5の2がいい」
小学6年2組	担任	「六年生 みんなの笑顔 元気です」
	高橋 ゆず	「熱い犬の名前は ホットドッグです」
	橋 柚希	「入学式 桜の花びら 地面にまいちる」
	音琴 日菜	「インディアナ 春一番の 風強い」
	角谷 玲衣	「桜の木 そろそろ葉っぱ 増えていく」
	中久木愛椰	「インディアナ 日本じゃないのに さくらきれい」
	ウエリング航	「みずたまり つちのベッドに ねているぞ」
	池田菜々音	「アメリカで できればいいな お花見を」
	河本 瑛真	「お出かけで 一面の花 花びらが 空一面に ふきさきほこる」
		「春の雨 ぬれる私の 帰り道」
	大宮 亮平	「卒業式 話長くて めっちゃねむい」
	王 茜音	「きりんが きりにいる」
	慶野 璃音	「あおぞらに 白いわたあめ おいしそう」



ヒゲ森の言葉の森・探検

はくしや せいしよう

白砂青松

白い砂浜と青い松林。美しい海辺の景色をいう。

何事も思っているほど悪くない。

朝になれば状況はよくなっている。

コリン・パウエル

1937年〜2021年 米の政治家。

深刻になりすぎず、楽観的に考えよう。心配すること自体が問題解決につながるわけではない。